

パッシオン

第15号

2001

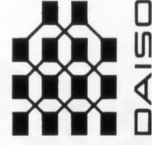
あたらしい世紀へのゆめ



四日市市文化協会

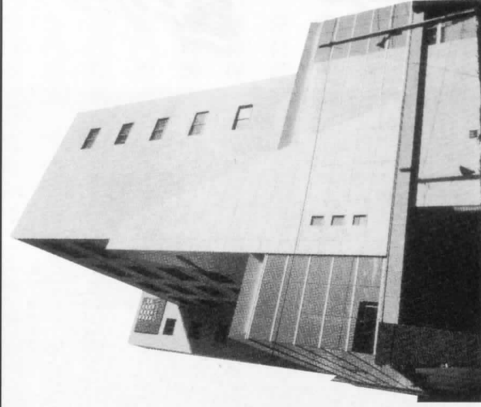
人と、街と、空間の、
ここちよい“響き”を大切にします。

私たち大宗建設は、確かな技術と
時代に先立つ感性を基本にして、
人と、街と、空間の、ここちよい“響き”を大切にす
るスペシャリスト企業でありたいと願っています。



大宗建設株式会社

〒510-0044 三重県四日市市相生町1番1号
TEL.(0593) 53-6661 FAX.(0593) 54-2226



誌名の「パッション」は、燃えるような”情熱”の意味です。

<目次>

特集記事 『あたらしい世紀へのゆめ』

「わたしのゆめ」(伊藤宣郎氏訪問レポート)

石松 延・塚田盛久……1

私の部門の21世紀への抱負

文芸部門「予感」	樋口 仁……………2
美術Ⅰ部門	中口晴舟……………3
洋楽Ⅰ部門「合唱は楽し」	安垣英子……………4
洋楽Ⅱ部門	増井宣之……………4
演劇部門	山本淳子……………5
生活文化Ⅰ部門「21世紀を迎えての夢」	小林春荘……………6
生活文化Ⅱ部門「ひと粒の種から」	原 源信……………6
伝統文化部門「夢に終わらせたくない夢」	赤井重規……………7
総合部門「文化協会があるから文化がうまれるのではありません」	藤田正明……………8

今年になつてからの四文協行事

新春の集い	本郷信彌……………9
大垣市での文化交流と見学	塚田盛久……………10
新春文化討論会	西村邦彦……………10
駒ヶ根方面ウイナー作りバス旅行	杉田軍次……………12

一般記事

句集「御在所・乗鞍」	尾崎浅陽……………14
美術品に対する日本人のモラル	本郷信彌……………14
提言…1市民より	……………15
新年度の役員ご紹介	伊藤巳代次……………16

<写真提供> 執筆者および広報部

<カット> 石松 延

四日市市文化協会に関するお問い合わせや、入会お申し込みなどについては、文化協会事務局へご連絡ください。

〒510-0057

四日市市昌栄町21-10 市民生活課分室

TEL・FAX 0593-51-3729

開局時間…火曜日から金曜日までの午後1時～5時

訪問レポート(美術Ⅱ部門)

わたしのゆめ

新彫会代表 伊藤宣郎さん

市役所北の市営駐車場前広場に建つ「ビクトリー」像、博物館玄関内の右側を飾る「未来の將軍」像、名古屋駅松坂屋前の「盲導犬サーブ」記念像などで知られる、日展彫塑作家伊藤宣郎さんを高角のアトリエに訪ねました。伊藤さんは二十四歳で日展に初入選され、以後二十八回入選(中日賞・特選含む)の実績を積み、現在、市展・県展審査員、日展展覧会、日展会友として活躍されています。



宮大工のお祖父さん、書道教師のお母さんのもとに育った伊藤さんは、最初、萬古焼の原形作りをする仕事の傍ら、彫刻に熱中し、その実力が認められて後援会が結成され、その援助で上京して太平洋美術学校に学ばれ、続いてヨーロッパ十八ヶ国・百日外遊の機会が与えられ、「高校で彫刻の基本を習った片山先生をはじめ、後援会や美

術商など多くの人たちとの、ご縁に恵まれてやってこれました……」と。

また「やっと最近、モデルを使わずに制作出来るようになり、作品をつくることから、作品をこしらえるようになりました……」との言葉に、アトリエに群立した、練達への軌跡を表わす作品に魅せられてしまいました。

「四日市も、文化を支えよう、文化を盛り立てようという人が大切なんで、自分だけで良いという芸術家は必要ないと、思いますね」と、きっぱり。

「おふくろは、九十歳を過ぎ、病気で右手の機能を失いながらも、左手で懸命に絵をかいて、それが段々とうまくなつてきてネ」とのお話しに、なる

ほど芸術の根っこはここに……、と感じ入りました。

二十一世紀に、これからの抱負は？との問いに、目を輝かせながら、

「こども博物館を作って、その前の庭に、こどもが肌で触れたり、上へ乗って遊べる作品（表紙・夢路）を置きたい」と。また「大切なことは、皆で良い環境を作らないとネ。駅に降り立った時、四日市はええなーと言える、町のイメージを印象づける作品を建てたい」と、それぞれの雛形を見せてくださいました。

私たち文化協会も、このような事業に具体的な支援が出来るようになりたいと願いつつ、菜の花の香りに送られる

れるけれど、それは、もう過去の亡霊として断ち切るべきではないかと、切実に思うのである。

今こそ新世紀の川柳を目覚めさせる刻なのだ。

幸い、このところ若手作家といわれる人達が、各地で少しずつ川柳の流れを変えるべく火柱を上げている。インターネットも活用し、いろいろな場所の研究やディスカッションをしながら、二十一世紀の川柳を展望している。二十一世紀の川柳は面白くなりそうだ。今、そんな予感の中に立っている。

一列に並んで春を迎えよう
人生の一部であった頃の恋

〔四日市川柳会 樋口仁〕

てアトリエを後にしました。

〔取材 石松・塚田〕



私の部門の二十一

世紀への抱負

文芸部門（川柳）

『予感』

短歌界に俵万智、俳句界に黛まどかが居て、川柳界にアイドル的存在の作家が居ないのは寂しいことである。

各地域では三十〜四十代の若手作家が、少しずつ育ってきているのは確認しているが、ブームを巻き起こすまでには至らず、小さな川柳会に埋もれ、メジャー進出の望みさえ無いというのが実状である。

もともと、短詩型文学の中で、親し



み易さという点では群を抜く川柳だが、同じ仲間の短歌や俳句に、

知名度では一步遅れをとりつつ進んできたことは否めない。

歴史、表現、体質、有名作品、アピール度等々、たくさんの理由は考えら

美術I部門

私は四日市市文化会館で、かな書道のサークル活動をしている者です。

例えば、最近はパソコン、ワープロ、電話にファックスなどなど便利な物に囲まれて、ほとんどの人が毛筆を必要とすることは無い時代になってしまいました。ですが、手で書いたものが無くなってしまっただけで良いものでしょうか。

筆ではなくてもペン

書きでも、手書きのものは、その人らしさを感じられる大切なものだと思います。二十世紀の日本は、どちらかといえば伝統文化を見捨てて走ってきたように感じます。

二十一世紀は、いいものは何世紀にも亘って受け継がれ、大切に守られて絶えずその時代に息づいていくということに、ようやく気がつく時代なのではないかと思えます。そして必ず、伝統文化を大切にすると時代になると私は信じています。

皆様、ちょっととまって、ご一緒にペン、筆を持ちましょう。大切なものを大切に始めるの第一歩です。

〔佳舟会 中口晴舟〕

洋楽Ⅰ部門

『合唱は楽し』

洋楽Ⅰ部門に所属する四日市市内の合唱団は、現在十団体と個人会員一名が加盟しており、女声合唱、男声合唱、混声合唱などで構成されています。

毎年秋に市民文化祭の一環として開催される「合唱祭」は、各団体がそれぞれに練習を重ねてきた合唱曲を、文化会館の第二ホールという最高の舞台上で発表できる機会となっています。

団員は二十代の若者から八十代まで年齢層は幅広く、曲目も童謡から世界の名曲まで、実に多彩で、音楽の持つ奥深さを味わうことができます。



合唱を通して、人の和と、音のハーモニーの素晴らしさや、楽しさを知れば、自然と生きがいに通じ、それは又健康にも繋がります。

今年も第二ホールいっぱいには歌声を響かせます。ぜひ合唱祭を聴きにきてくださいませ。そして一緒に合唱しませんか。

日本の合唱レベルは、世界でもAクラスといわれています。四日市にも未加盟の幾つかの大小合唱団が活躍しておられますが、二十一世紀には、みん

な一緒になって、更に素晴らしい合唱の祭典が出来る事を夢見ております。

〔コール・ハモロー 安垣英子〕

洋楽Ⅱ部門

私も洋楽Ⅱ部門は、吹奏楽、軽音楽、民族音楽などが所属する部門で、現在「風の谷ウィンドアンサンブル」という吹奏楽団、「ブルーコースト」というハワイアングループ、そしてシヤンソン歌手の橘妃呂子さんが加盟しております。

私どもは洋楽器を演奏する人間達で、この音楽を通じて、まず自分達が音楽の喜びを感じると共に、生きがいを感じ

演劇部門

昭和三十年代、たくさんの方の労働者たちが演劇に情熱を燃やし、各地域にたくさんの方の劇団が生まれました。

そして装置も自分達で作る、質素ながらも、精一杯の公演を観て頂く喜びを味わいました。

そして二十一世紀…：劇団の形態も変わってまいりました。

演劇はやりたいが、一つの劇団ではなく、フリーの立場で出演の依頼があれば出演したい、という若者が増えてきました。

そして今は、装置、音響、照明など全部プロの人に発注します。昭和三十

年代のように、自分達手作りの装置では観客も満足しません。

これからは、どういう形態が良いのか、私には分かりませんが、今のところ、より良い創造を目指して、精一杯頑張るしかありません。

来る七月二十一、二十二日の記念公演「貝がらの詩」(新美南吉物語)をご期待ください。

〔劇団四日市 山本淳子〕



じ、そしてより多くのの人に、この音楽の良さを伝えるべく、日々活動をしています。

二十一世紀を迎えて、特別大きな変化はないと思いますが、積極的な

前向きな姿勢は保ちつつ、今後も地域文化の発展に貢献していきたいと考えております。より地域の方々に親しまれる団体、更には四日市市文化協会であるよう努力していく次第であります。

〔風の谷ウィンドアンサンブル

増井宣之〕



生活文化Ⅰ部門

『二十一世紀を 迎えるの夢』

お茶やいけ花等伝統の世界に身を置く私達にとって、二十一世紀は心の豊かな文化の世紀であってほしいと願っています。

現在は科学技術が急速に発達し、物質的には大変恵まれた環境の中で生活しています。しかし、物が豊かになった反面、心が貧しくなった



て、自然以上の自然を盆上に描き造り出したもの。

この植物を大切にする心、そんな命を尊ぶ事を、小学校からの教育の一環としてやれば、青少年の犯罪は起き得ないと同時に、盆栽愛好者の後継者育成にもつながるだろう。

これらの事は二十一世紀の明るい日本を築いていくことにも、つながると言えよう。

〔O₂くらぶ 原 源信〕



といわれます。国内では政治不信が続き、景気は一向に好転せず、若い世代の犯罪も増加し、先行きの見えない混沌とした時代です。

生きる喜びを与え心の豊かさを取り戻し、いきいきと輝く人生が送れるよう、伝統文化もその一端を担って活動したいものです。

今、若い世代の伝統文化離れが深刻です。私達は長く続いた伝統を、次の世代に正しく伝える使命を持っており、一人でも多くの若い世代の方が、伝統文化を受け継ぎ、共に手を携え、お互い協力し合い、充実した二十一世となるよう努力しましょう。

〔池坊 小林春荘〕

伝統文化部門

『夢に終わらせ たくない夢』

四日市能楽連盟設立の時の目的の一つに、能楽堂或いは能楽にふさわしいホールの実現への運動を掲げました。

三十万都市に能楽堂をといては、私達の大きな夢であります。

次に、能楽の普及振興の努力は続けなければなりません。

日本の伝統芸能の第一とし



生活文化Ⅱ部門

『ひと粒の種から』

今年も、盆栽の展示会としては世界最高の『国風盆栽展』が、東京都美術館で開催された。

その中に、わがO₂くらぶの会員二名が難関をくぐり抜け出品された。さしずめ、東大合格……と言っても過言ではない。

日頃の丹精が報

われたと言えよう。しかし、この古木も元を辿れば、ひと粒の種から人が育



て、世界重要無形文化財に登録されようとしています。

能楽を次世代に継承してゆくことは、私達の使命と考えています。

学校教育の中にも能楽がとり入れられると聞いています。要望あれば、いや積極的に教育の現場に向き、能楽普及のボランティア活動をしたいと考えています。沢山の学校から派遣申し込みがあり、応じ切れないくらい、忙しくなることが夢であります。

次に現実的にとり進めている夢は素人の私達が能をやりたいという夢です。平成十四年度の市民文化祭には是非実現したいと計画しております。

現在の私達の実力では極めて難しい

と思われていますが、能楽師諸先生の強力な指導と援助によって、夢を現実のものにしたいと努力しております。その為には皆様の応援と、多くの方々のご支援をお願い致します。

〔四日市能楽連盟 赤井重規〕

総合部門

『文化協会があるから』

文化が生まれる
のではありません』

二十世紀は戦争と競争の時代でした。経済も教育も競争がベースとなり、物質的には豊かな生活をもたらせました。

しかし、その競争の原理が疲弊してきまざまなほころびが生じています。やっぱり二十一世紀は文化の時代だなんていわれはじめましたが、そんなにたやすく文化が復活するものではないか。

個性や個人の自立がこれほど尊重される時代になりながら、自前の表現に手間ひまかけることを忘れた人たちは、私も含めて多い。どうしてもマスメディアや文化もどきの環境の中に埋没して満足しがちになるのです。



文化協会もまた、組織はあるもの、自前テーマによる連帯のきざしは、いまのところその芽生えもなさそうです。文化協会があるから文化が生まれるわけではありません。

生活に根ざしたみずからの音楽や文学や祈りがあり、それらを手間ひまかけて表現する人たちがいて、手をつなぎ、心を交えるから文化は生まれてくるのです。

そこから生まれる連帯こそ本物の文化です。

原生林の一本一本の樹木は個立っています。その個立した木々が美しい森をつくっているのです。

〔フリー編集者 藤田正明〕

今年になってからの四文協行事

①『新春の集い』

一月二十一日(日)

昨夜来の大雪もどこへやら、好天に恵まれて午後四時から、四日市都ホテルの伊勢の間で『新春の集い』が催されました。

赤堀つる琴副理事の司会で、新春にふさわしく杉本千寿子さんら勝六流邦楽会による、お江戸日本橋と伊勢音頭の三味線演奏で賑々しく幕が開けられ、続いて酒稀の会のベテラン二人の三味線、太鼓山内美穂さん(小学五年生)、唄・山内千賀さん(小学三年生)によ

る長唄「越後獅子」演奏には、一同聞き惚れてしまいました。

木村理事長の力強い開会の挨拶に引き続き、理事長と石井正人氏(昨年度市文化功労受賞者)の音頭で乾杯という運び。

暫く歓談の時間を置いてから井上市長のご挨拶があり、市長は其中で昨年の「市民文化フェスティバル」を



評価し、文化協会への一層の期待を話されました。続いて、例年は来賓の議員の方々のご挨拶がメドレーで行われていきましたが、今回は来賓各位を一緒にステージへ上がって頂き、順次ご紹介させてもらいました。

その後はぼつぼつ自席を立てて挨拶・歓談・名刺交換があちこちで見られ、和やかな雰囲気程よく盛り上がった頃に、塚田副理事長の閉会挨拶で午後六時にお開きとなりました。

会場壁面には、四日市川柳会による「いろは川柳」が張り出され、会場を潤わせており、今年は百十一名の参加者があり、好評に終わりました。

〔広報部 本郷信彌〕

② 『大垣市での文化交流と見学』

二月八日(木)

年一度の「文化団体指導者研修会」

は、今まで外部から講師を招いて一泊研修をしたり、先進文化都市へ見学に行ったり、文化講演会を開催したりしてきたが、今年度は近くの文化都市岐阜県大垣市の文化連盟へ、両市の教育委員会を介して申し入れ、交流と見学の研修会を企画実施した。

四日市からの参加者は、文化協会・

文化団体協議会・文化課それに文化振

興財団からも加わって合計三十五名。

四日市を八時十七分にバスで出発、

大垣市の総合文化施設スイトピアセンターへ十時十分に到着。

センターの学習室にて午前中、大垣

市文化連盟代表の

方々と、交換配布

した資料に基づい

て、両市の文化活

動状況を説明し質

疑応答・意見交換

などを行った。

時間的な制約は

あったが大垣の会

員数一万五千人の組織活動、市民・行

政・企業のパランス良い文化活動、活

発な出版文化、ユニークな文化功労者

の表彰等々、多くを学ぶことが出来た。



午後は、教育委員会文化振興課の方

々のご案内で、スイトピアセンターの

諸施設・奥の細道むすびの地記念館・

大垣城・郷土館、そしてIT時代に備

えた大垣市情報工房を見学することが

出来、古いものを大切に守り、新しい

ものを進んで取り入れ、そしてゆとり

のある大垣市を、各自で体験してきた。

この度の収穫を最大限に活用してゆ

きたい。

〔幹事 塚田盛久〕

③ 『新春文化討論会』

日時：二月十日(土) 午後

会場：四日市市文化会館第三ホール

パネラー：岡野繁松氏(旧四日市を

語る会代表)、石田昇三氏

(トンボ研究家)、清水正

明氏(文芸評論家)、鈴木

とも子氏(シーティーワイ

社製作担当)、藤田正明氏

(フリー編集者)

コーディネーター：森悠紀氏

(オフィスマリ代表)

コンサート出演 四日市シル

バーコーラス、チェロ・ピ

アノ三重奏

文化協会として何度目か

なる文化討論会だ。なのに、

なかなか聞く人が集まらない

という。

本来、協会としては、得意

の分野だと思うのだが。長い

間、協会は四日市を中心にし

て、活動

を展開し

てきたは

ずなのに、

地元の水

化状況を

組織とし

て掴めて

いない。

そんな中で討論会のテーマ

を決めるのは難しい。

私たちは、案の定、何にし

ようかと悩みに悩んだ。



とにかく日が迫るので、や

つこのことで決めたテーマは

『今、伝えたい』

もの……市民文化の高齡

化と次世代へのかけ橋につい

て語る』

となかなかのタイトル。

パネラー、コーディネータ

ーは、地元で活躍している人

ということで、何人かの候補

の中から選んで、リハーサル

もそこそこに当日を迎えた。

お楽しみコンサートを交え

てなんとか無事に終えた。

会場には延べ二〇〇名が集

まってくれて成功だった。

石井アカデミー・ド・バレエ

教師 石井 正人 石井 昭子
石井 亨 石井 亜希子
稽古場 四日市市相生町 大宗ビル4F
四日市市松本 ときわ文化センター
四日市市一番街 中日文化センター
津市センターハウス 中日文化センター
鈴鹿市 白子スイミングスクール

※成人初心者クラス新設(日曜) TEL・FAX (0593) 52-9058

ただ、テーマの絞り込みが
できず、パネラーの熱心な討
論にも拘らず、意図したこと
が伝わったかは、すこし疑問
が残っている。

やはり協会の力量が問われ
ているような気がする。

正直なところ、私たちは四
日市でどんな活動をすればよ
いのか、教えて欲しかった。

討論会を終えた今も、頭の
中はスッキリしないが、今回
何人かの仲間と一緒に残
取り組んだことが気持ちに残
っている。

〔担当 西村邦彦〕

昼食後は六人一組のグルー
プに分かれて、ウインナー作
りに挑戦。

ミンチを約二十分手でこね
まわすのに、温度を上げると
赤くなるというので、氷を入
れながらの作業。

腸話にかかり、二人一組で
作る。息が合わないと空気が
入るので、初めは細いのやら
太いのやらが出来て大変でし
たが、すぐに何組かのペアー
は手つきも良く、何とか形の
良いウインナーが出来ました。

持ち帰りまでに一時間ほど
燻製にするので、その間、水

④ 『駒ヶ根方面 ウインナー作り バス旅行』

二月二十五日(日)

文化協会の親睦バス旅行を、
総勢三十九名の参加を得て実
施することが出来ました。

幸い天気恵まれ、話術に
つけたバスガイドさんと、安
全運転に心掛ける運転手さん
に一日身体をあずけ、にぎや
かに出発。

早速カラオケが始まり、飲
んだり、食べたり、ワイワイ
ガヤガヤと、童心にかえって

楽しい旅に夢をふくらませ、

各部門の活発な交流に時間も
忘れそう

になった

時、車窓

に雪景色

が見えて

きました。

まず、

信濃路の

霊犬早太

郎で有名

な宝積山

光前寺の、両側に雪が積み上
げられた参道を歩いてお参り
しました。



引き工芸の工場を見学しまし
た。作業場を見せてもらい、
職人の手馴れた手さばきで、
みるみる

うちに鶴
が作られ

質問に答

えた人に

は、作品

を頂きま

した。



いろいろな作品を感動しな
がら見学し、外に出て記念写
真を取りました。

次の目的地のドライブイン
に着き、そこで甘酒のサービ

スを受け、その後売店で試食
のつまみと地酒試飲を少しづ
つ味わい、それぞれがお土産
を買い込みました。

そこへ出来上がったウイン
ナーが届けられたので、帰路
につくことになりました。

帰りのバスの中は、ビンゴ
ゲームでおおいに盛り上が
り、大変楽しい一日を過ごす
ことができました。

全員無事に帰られたことを
感謝し、来年度は各部門より
沢山の人が参加してください
よう望みます。

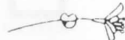
〔幹事 杉田軍次〕

大重建設

〒510-0826 四日市市赤堀1丁目1番16号
電話 <0593> 52-8287
53-2031
FAX <0593> 51-7795

思いでいろいろ...

各種発表会・結婚式など



ビデオ・写真・CD セコ

〒511-0102 桑名郡多度町香取21
☎(0594)48-3248

将棋

伝統文化の一つ、将棋で楽しみたい人(会)のご相談お応えします。
当会は、将棋の分野で地域のNPO組織を目指して活動しています。

事務局

日本アマチュア将棋連盟
東海ブロックよっかいち

〒510-8508 四日市市諏訪町7-17 (四日市市役所北隣り)
TEL・FAX 0593(54)0625

御在所・乗鞍

俳人協会会員、雪解同人、文芸部門

尾崎 浅陽

朝刊の題字緑にみどりの日
母の日の港めぐりの船に母
御在所の山上の駅夏炉焚く
老鶯に侍従入江の歌碑そびゆ
羚羊の皮打敷ける夏の炉辺
わが髪に触れ乗鞍の夏の霧
胡桃殻握るリハビリ藤椅子に
山門に待つサングラス眉にあげ
磐石に水を抛ち滝かかる
蠅虎おのれを弾き戸袋に

(蠅虎：はえとりぐも)

美術品に対する 日本人のモラル

美術Ⅱ 本郷信彌

数少ない海外旅行で、軽率に文章は書けないが、つんと澄ましたイギリス人やプライドの高いフランス人に較べて、イタリア人は陽気で人なつっこく、茶目つ気たつぷりの様に私は感じた。
ルネッサンス発祥の地と言われるイタリアのフィレンツェにあるウフィツィ美術館を訪ねて驚いたのは、中学の図工の教科書にも写真が載って

いる「ビーナスの誕生」という絵が、むき出しで展示されているのである。

いたずらっぽいイタリア人だから、何かいたずらしそうな気がしたが、四百年以上経た今でも厳然と原状を留めているのである。



その絵は単にイタリアの文化遺産というより、全世界的なかけがえない名画なのである。

パリのルーブル美術館でも「モナリザの微笑」以外の絵は直接目に触れることが出来た。ここでも、監視員らしい人の姿は見られなかったが、

「ミロのビーナス」像の側には、大柄の黒人のおばさんがデンと椅子に腰掛けていた。何か言われそうに思ったが、カメラのシャッターを切ったら、案の定大声で怒鳴られた。

ヨーロッパでは、重要な美術品が全く無防備で展示されているのに、我が国では、街角に建つ銅像にいたずらしたり、展示会場の絵が刃物で切

られるという事件を耳にする。改めて日本人の美術品に対するモラルの低さを感じている。

提言：

一 市民より

「パッション」十三号を拝見しました。

協会活動を「広く市民に知ってもらう」ためには、記事にもある如く、シー・ティー・ワイのご理解とご支援により、インターネットのホームページを、いち早く立ち上げ、市民の皆様の声を反映した協

“人と街との情報空間” 参加型コミュニティサイト **Mag-Net**

印刷&インターネットで情報発信のお手伝い

国際標準規格 ISO 9001 認証取得企業

水九印刷株式会社

〒510-0013 四日市市富士町1番147号 ■TEL (0593) 32-6600
■E-mail: admin@mizuku.co.jp ■FAX (0593) 32-6688

胃腸科・消化器科・肛門科・外科

石田胃腸科病院

院長 石田 克久

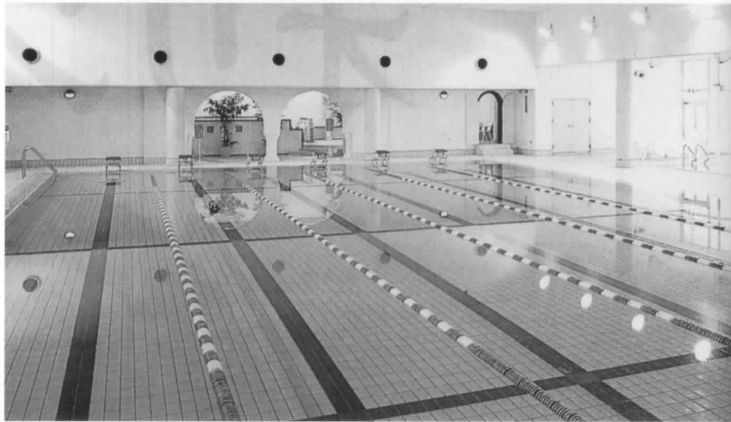
四日市市朝日町1-15 (JR四日市駅前) ☎(0593) 53-3313(代)

●診療時間/AM9:00~PM1:00 PM2:00~PM7:00

●休診日/日・祭日・土曜午後

OLYMPIA

いつまでも
美しく健康で
暮らしたい!!



ゆったり駐車しやすい
大駐車場200台完備!



OLYMPIA スポーツクラブ



OLYMPIA スポーツクラブ

☎0593-32-4848

- 利用料なし
- 夜11時まで営業
- 月会費 4,500円より
- 自慢の露天風呂
- テニスドームだから日焼けなし!!

会を構築していくことが、

二十一世紀を見据えた重要な視点とあります。

若い方々の新発想を大切に、また超高齢社会での文化交流、文化造りは、ゆつくりと、ゆたかな人的交流、趣味の交流から始まり、より高度な深み、味わいが醸成されていくことを期待します。

四日市大学などの教育機関や、自治体、老人会などとも連携をとるにより、斬新な活動が期待できると思います。

新年度の役員ご紹介

名誉会長	石田克久	部門理事	岩田聖子 (洋楽Ⅲ)
理事長	木村道山	部門理事	山本淳子 (演劇)
副理事長	塚田盛久	部門理事	西川司女 (舞踊Ⅰ)
副理事長	西村邦彦	部門理事	常磐扇舟 (舞踊Ⅱ)
常務理事	伊藤巳代次	部門理事	石井 亨 (舞踊Ⅲ)
常任理事	杉田軍次	部門理事	神尾テノロ (芸能)
常任理事	石井冠山	部門理事	小林春荘 (生活文化Ⅰ)
常任理事	南城仁香	部門理事	原 源信 (生活文化Ⅱ)
常任理事	中口晴舟	部門理事	赤井重規 (伝統文化)
常任理事	保地桂水 (文芸)	部門理事	松本隆文 (趣味教養)
部門理事	花井高峰 (美術Ⅰ)	部門理事	東 克利 (文化交流)
部門理事	本郷信彌 (美術Ⅱ)	部門理事	藤田正明 (総合)
部門理事	山路泰洲 (邦楽)		
部門理事	安垣英子 (洋楽Ⅰ)		
部門理事	増井宣之 (洋楽Ⅱ)		
		会計監査	森 紀元
		会計監査	水谷 達

〈歴史文化と自然は未定〉

●原稿募集

会員および一般市民の原稿をお待ちしております。文芸・歴史・提言・情報など、写真・イラストなども歓迎。

●お願い

障害者の方々と、介護者の方々をベアでお招きする、プレセント・チケットをご提供ください。何枚でも結構です。

事務所までご送付願います。

パッション第十五号

発行 平成13年5月16日

発行人 木村 道山

編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部

●編集 文化協会広報部